

第1学年生活科学学習指導案

日時 平成15年9月5日(金)5校時
児童 1年1組 男18名 女13名 計31名
授業者 教諭 馬場潤子
講師 佐藤真希

1. 単元名 いきものだいすき

すくやかサポ-ト

2. 単元について

(1) 指導内容

生活科の目標(2)に「自分と身近な動物や植物などの自然との関わりに関心を持ち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。」とある。

この目標を受けて、次の内容が示されている。

(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

これらに基づいて本単元は設定されたものである。

(2) 児童の実態

児童は、生活科の授業が好きで、これまでに学校や学校の周りを探検したり、公園に行って友達と仲良く遊んだり、草花や虫と遊んだり、あさがおの栽培活動をしたりなどの活動を行ってきた。その中で、友達や先生、学校の施設や設備、動植物に関心を持ち、進んでかかわることができた。文を書いたり、作品を作ったりする時も、進んで取り組む児童が多い。しかし、中には、自分なりの表現ができない児童も見られるので、そのような児童には個別に指導し、自分の思いに近づけるよう、支援している。

あさがおは、5月末に種蒔きをし、2週間ぐらいで芽が出た。一人一人が朝と夕の2回、水やりを行い、夏休み中は家に持ち帰って世話を続けた。中には、休み中に花が咲いた数を記録してきた児童もいた。夏休み後に花の様子を観察させ、生活科シートに書かせたところ、花の色や数、大きさのほかに「きれいでした」「たくさん咲いてうれしかった」「学校であまり咲かなくて残念でした」と気持ちを書いてくれた児童もいた。花の使い方を話し合ったときは、押し花、型押し(こすりぞめ)、色水が子ども達の方から出てきた。さらに、それらを使ってできるものを考えさせたところ、こちらが予想していた事他に、「手紙を書く」「絵をかく」「スタンプをする」などが出された。何を作りたいか希望をとったときは、初めは全員が色水を作りたいと手を挙げた。

(3) 今までに国語科作文領域で培った能力

児童は、入学してから、これまでに、視写や言葉遊びなどを通して、平仮名を中心に書く学習をしてきた。文を書くことについては、「ことばをいれて、ぶんをつくろう」で絵や友達の動作を見ながら、主語と述語の文を考え、文作りを楽しむ学習をした。また、「は、を、へをつかってかこう」では、絵を見ながら、助詞の使い方を理解して文を作り、文作りやお話作りを楽しむ学習をしてきた。その他に、生活科の学習の中で、学校探検したことや朝顔の観察日記を書いている。

(4) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、まず、自分が育てたあさがおの花が咲いているところを観察し、花で遊んだり、作品を作ったりする。次に、外に出て身近な虫や草花と遊んだり、飼育小屋や教室等で飼育している生き物と遊んだりして、自分の周りの動物とかかわりをもたせる。そして、それらのことについて観察し、各自好きな方法で表現させる。そして、最後にまた、あさがおに戻り、種の観察をし、今までの世話をまとめる。

ここでは、自分たちが世話をしたり、動植物の特徴や成長の様子を観察し、表現することによって、動植物も自分たちと同じように生命をもって生きていることに気づかせたい。

一人一人の児童の思いをかなえるために、適宜、サポートの先生に支援していただき、児童が満足な様子で授業が終えられるよう進めていきたい。

3. 単元の目標

- ◎ 身近な動植物の生態や成長に関心を持ち、適切な世話を考えたり、行うことができる。
- ◎ 動植物の世話や触れ合い、観察を通して、気づいたことなどを振り返り、動作化や紙芝居、本などにまとめて表現することによって、生命の大切さに気づくことができる。

〔評価の規準〕

- ① 動植物の世話に進んで取り組んでいる。

- ②動植物の成長や変化等をとらえ、適切に表現したり、工夫して作品作りをしたりする。
- ③動植物の成長や変化等に気づいている。

4. 単元指導計画（15時間）

次・時間	学習内容	教材・資料	評価規準
1次 はなを かんさつしよう 4	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの花を観察する。 ・花の使い方を話し合う。 ・作品を作る。①（全員） ・作品を作る。②（個人） …本時 (4/4)	生活科シート ワークシート 材料・用具	<ul style="list-style-type: none"> ◆花の色や大きさに興味を持っている。 〈黙・観・観〉 ◆思いを生かして作品を作ることができる。 〈観〉 ◆小さな種から大きく成長し、たくさん の花ができることに気づく。〈気づ〉
2次 いきものと なかよしく なろう 2	<ul style="list-style-type: none"> ・外に出て昆虫や草花などを探 して遊ぶ。 ・飼育小屋や教室で飼っている 動物、校舎の昆虫など生き物 となかよく遊ぶ。 	生活科シート	<ul style="list-style-type: none"> ◆生き物や草花などに進んでかかわ っている。 〈黙・観・観〉 ◆生き物のことを考えてかかわること ができる。 〈観〉 ◆動物に触ると温かいことに気づく。 〈気づ〉
3次 いきものこと をおしえあおう 6	<ul style="list-style-type: none"> ・育てている生き物を観察する。 ・各自が好きな方法で表す。 ・作った作品を使って遊んだり 発表したりする。 	生活科シート ワークシート 材料・用具	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の好きな方法で意欲的に取り組 んでいる。 〈黙・観・観〉 ◆思いを生かして、自分の作品を作り 上げることができる。 〈観〉 ◆生き物は成長していることに気づく。 〈気づ〉
4次 たねとりを しよう 3	<ul style="list-style-type: none"> ・種の観察をする。 ・これまでの世話をまとめる。 	生活科シート 材料・用具	<ul style="list-style-type: none"> ◆種取り、種の色や形、大きさに興味 をもっている。 〈黙・観・観〉 ◆思いを生かして、作品を作り上げる ことができる。 〈観〉 ◆植物は、種類によって、種の色や形、 大きさに違いがあることが分かる。 〈気づ〉

5 本時の学習

…目標

自分で育てたあさがおを、自分の好きな方法で、思いを生かしながら、進んで作品を作ることができる。

(2)判断基準

本時の目標	A	B	C（子どもへの支援）
◎自分で育てたあさがおを、自分の好きな方法で、思いを生かしながら、進んで作品を作ることができる。	・思いを生かして自分から進んで作品を作ったり、紹介カードを書いたりする。	・思いを生かして作品を作ることができる。	・補助資料やヒントカードを使って作品作りの支援をする。

(3)本時の指導にあたって

本時は、種になる前、きれいに咲いているあさがおの花を観察するだけでなく、何か形に残しておきたいと考え設定した。前時まで、花が咲いている様子を観察し、その花の使い方を話し合う。その中で出てきた「アサギリぞめ」を全員で行い、本時はまだ作っていない使い方の中から自分が作りたい物を選び、作品を作っていく。グループが大きく2つ（押し花と色水）に分かれそうなので二人の先生がそれぞれ支援にあたる。

その時、自分なりに表現を楽しんでいた、工夫していたりしている児童は認め、他の児童に紹介する。また、なかなか思いを表せない児童には、サポートの先生とともに個別に、どういうイメージか尋ねることによって、はっきりイメージが浮かぶように手助けしたい。

(4)展開

段階	学習指導過程	学習活動と主発問	指導上の留意点	評価と備考
導入 5分	1 課題把握 (1)前時に作った「こすりぞめ」について感想を発表する。 (2)本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の課題をつかむ。 ○「こすりぞめ」を作ってみてどうだったか。 ○今日はまだ作っていない作品の中から自分が作りたいものを作りましょう。 ○めあてを読みましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">あさがおのはなでさくひんをつくろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> • 何名かの児童を指名し、発表させる。 • 支援を要する児童に付いている。(サポートの先生) <ul style="list-style-type: none"> • 課題を提示し、全員で読んで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の課題がつかめたか。
展開 35分	2 課題追求 (1)作品を作る手順について説明する。 (2)作品を作る。 (3)後片付けをする。 3 発表	<ul style="list-style-type: none"> ○押し花と色水の作り方を説明しますから、静かに聞きましょう。 ○作品を作りましょう。 • 早く終わった児童は紹介カードを書き、またほかのものに挑戦しても良い。 ○後片付けをしましょう。 • できあがった作品を見せながら発表する。 ○できあがった作品をみんなに紹介しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • それぞれの手順の書いた紙板書を貼り、説明する。 • 材料コーナーを設置し、そこから必要な物を持っていかせる。 • 二人の先生の割り振りも教えておく。 • 自分なりに表現を楽しんだり、工夫したりしている児童は認め、紹介する。 • なかなか思いを表せない児童にはどういうイメージか尋ねることによりはっきりイメージが浮かぶように手助けする。 • 使った物はもとあった所に整頓して返させる。 • どんどころを工夫しているか、友達の良いところを見つけさせる。 	<p>〈評価〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A. 思いを生かして自分から選んで作品を作ったり、紹介カードを書いたりする。</p> <p>B. 思いを生かして作品を作ることができる。</p> <p>C(支援) 補助資料やヒントカードを使って、作品作りの支援をする。</p> </div> <p>(•座席表でチェックする。)</p>
終末 5分	4 課題についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習のまとめをする。 ○あさがおの花で作品を作ってみてどうだったか、プリントに書いてみましょう。 • 次時の学習予定を知り、意欲を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 課題に立ち返り、本時の学習を振り返らせる。 • 次時には、「いきものとなかよしになろう」というところに入ることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の好きな方法で楽しみながら作ることができたか。(評価カード)